

▶ □ 印刷

ラッセル: 日本株の運用会社にファンネックスを採用、15年超過収益

3月19日(ブルームバーグ): 資産運用管理サービスを提供するラッセル・インベストメントは19日、が設定・運用管理しているマルチ・マネジャー投信の日本株の運用会社に、ファンネックス・アセット・マネジメントを同日付で採用したと発表した。ファンネックスはバークレイズ・グローバル・インベスターズに代わり、マーケット・オリエンテッド(市場)型運用を担当する。

市場に勝ち続けた15年、「逆らわない」

ファンネックスは、短期の市場トレンドや中長期的に市場をけん引する投資テーマを見極め、企業調査をもとに投資銘柄を選定する。ファンネックスで運用を担当する吉見晃シニアファンドマネジャーは、この15年間同じ運用スタイルによって毎年東証株価指数(TOPIX)をアウトパフォームする運用成績を上げてきた。

「日本の株式市場では割安な銘柄に投資すれば、中長期にアウトパフォームする可能性は高い」(吉見氏)との考えに基づき、ポートフォリオのPER(株価収益率)は運用成果を計る指標のベンチマークを下回ることを大前提としている。大型バリュー株投資を基本としながら、「市場と戦うのではなく、市場の声を聞き、市場に逆らわない」(吉見氏)をモットーに、中小型成長株が選好されている場面ではそうした銘柄にも投資する正攻法で臨んでいる。

吉見氏は、日本株は当面厳しい局面が続くとしながらも、09年に景気が多少改善するならば、株式市場はその半年前の今年夏あたりから回復するだろうと予測。今後世界景気をけん引していくエマージング(新興経済)諸国の成長の恩恵を受ける企業や、環境問題の深刻化を背景に、環境技術など関連企業が長期的に成長する可能性が高いとみている。

運用資産の18%を担当

ファンネックスの投資過程は、現在ファンドで採用されているほかの運用会社と異なるため、超過収益の源泉を多様化し、さらなる分散効果が期待できるとラッセルでは判断した。

採用の結果、日本株の運用における新しい運用スタイル別運用会社と目標配分比率は、グロース型がJPモルガン・アセット・マネジメント21%とピクテ投信投資顧問12%、バリュー型はソシエテ・ジェネラル・アセット・マネジメント・インターナショナル19%、T&Dアセットマネジメント12%、アライアンス・バーンスタイン18%。ファンネックスが担当するマーケット・オリエンテッドが18%となった。

記事についての記者への問い合わせ先: 東京 浅井 真樹子 Makiko Asai
masai@bloomberg.net

更新日時 : 2008/03/19 11:41 JST

▶ □ 印刷